

世界規模のコンピューター通信ネットワーク「インターネット」が県内でも拡大し始めた。学術研究の情報交換に岩手大が積極利用しているほか、中学、高校でのパソコン教育にまで利用されている。「国内各地



や世界と直結する通信網を生かせ」と、民間会社は新規事業に乗り出した。行政の関心も高く、県は試験運用に取り組んでいる。官民、世代、分野の壁を乗り越えて多彩な情報の受発信が展開されている。

国内外と多彩な情報受発信



インターネットで県外高校と情報交換する盛岡白百合高。生徒は操作も簡単にこなす

県内でも利用拡大

インターネットは大量の各種学会との連絡や研究上、見交換もできる」とその効き、学術と商用の各ネットワーク、学部の阿部芳彦教授(情報)が使い分けられている。岩手大は八年度から学手大では一年前に導入。上で簡単な会議の処理や意

会議、研究、パソコン教育 官民、分野超えて

は学術論文の審査もインターネットで行っている。今二月、県内市町村として初めてホームページを開設した。同市の名所やイベント情報を世界に向けて発信中。発案者の布台一郎財政課主事は「PR効果はもたらん、自分で思い通りの世界を創造できる」というインターネットの特性が、賢治の思想につながる」と利用に期待をかけている。

盛岡白百合高は、パソコン教育にインターネットを取り入れた。電子メールで全国の高校生と意見交換しながらの授業も展開している。学校の活動を紹介する「ホームページ」を昨年十月に制作したところ、一日に四百件近い接続があるという。

行政も情報伝達やPR効果を狙って導入に前向きだ。県は昨年から工業技術センターなど試験研究部門や、観光課、科学技術振興室など行政部門にも端末を配置し試験運用している。来年度には岩手の情報を網羅して紹介するホームページも作成する予定。

今夏に宮沢賢治生誕百年祭を控えた花巻市は昨年十一月、県内市町村として初めてホームページを開設した。同市の名所やイベント情報を世界に向けて発信中。発案者の布台一郎財政課主事は「PR効果はもたらん、自分で思い通りの世界を創造できる」というインターネットの特性が、賢治の思想につながる」と利用に期待をかけている。

今夏に宮沢賢治生誕百年代が到来しつつある。